

◎最優秀提案 イメージパース ※各解説は提案書類より抜粋

【本町二丁目五差路交差点】

歩行者、自転車、車椅子、みんながノンストップの深呼吸をするように遠くが見える気持ちのいい五差路。

遠く赤城の山並みを望み、小さなアンフィシアターのある広場を見下ろすブリッジは、山並みと都市生活者をつなげる。



【県庁前県民広場】

県民広場と県庁前通りの一部を含む広々とした山並みを望む緑のエリアで、既存のけやきを労わりながら新しい樹木を植えることで都市の中のマンモス規模のグリーンエリア。

大通りと一体的な広がりを見せる県民広場は、インクルーシブな傾斜によって、イベント時のアンフィシアター的集約感と日常時の空間のまとまりと安心感を作り出すとともに、風が防げるモビリティハブを屋根下空間に創出する。



【駅前通り】

学習塾やマンション、温泉など日常使いエリアにおける、日常の延長線上の居場所で、駅から市街地へ向かう際に歩きたくなる道「ストリート」であり、沿道の施設を少しバックアップするような居場所を作ることによって、そこで過ごしたくなる「ライフ」の場でもある、人々の新たな流れを促すデザイン。



【国道50号】

周辺商業施設の賑わいと一体となった「まちづかいの場」として、ポップアップイベントやお祭りなどフレキシブルな活動に対応するストリート。



【県庁前通り】

市民生活のすぐ横にある水と緑の公園のようなエリアで、公園のような居心地の良さ、自然感で人々を引き込み、主に官庁の集積イメージの濃い現状から、住む人、営む人、働く人、遊ぶ人、通る人が混在、あるいは交流するエリアとする。

